



# 水戸芸術館 令和8年度事業計画

公益財団法人 水戸市芸術振興財団



## 目 次

水戸市芸術振興財団事業計画	1
音楽部門事業	3
演劇部門事業	24
美術部門事業	39
こども芸術館サマー・フェス 2026	53
地域共催事業	54
中心市街地活性化事業	59
吉田秀和賞	60



## 令和8年度公益財団法人水戸市芸術振興財団事業計画

令和8年度水戸市芸術振興財団は、水戸芸術館において、これまでの実績を踏まえ、「新しい芸術文化を創造する」「国際的な視野にたって芸術文化の交流を行う」「楽しみながら考える」「市民の芸術文化活動の拠点となる」「都市の活性化に寄与する」を運営の基本理念に、芸術文化の創造と振興を図り、市民文化の向上のため、音楽・演劇・美術の各分野で多彩で魅力あふれる事業を実施してまいります。

公益目的事業として、音楽部門では、国内外で活躍する演奏家で構成する専属楽団の水戸室内管弦楽団や新ダヴィッド同盟、カルテット AT 水戸の演奏会をはじめ、武満徹没後 30 年記念企画、地元演奏家によるコンサートなどを開催いたします。また、「水戸室内管弦楽団子どものための音楽会」「市民のためのオルガン講座」など、様々な教育普及事業を通して音楽の魅力に触れる機会を数多く創ってまいります。

演劇部門では、プロデュース公演や気鋭の演出家による公演、著名な俳優が出演する公演、狂言や落語の伝統芸能など、幅広く舞台芸術作品を紹介いたします。教育普及事業では、「子どもミュージカルスクール」や「小学生のための演劇鑑賞会」などにより、演劇を身近に親しむ機会を提供いたします。また、水戸市民会館大ホールを会場として「夜のピクニック」を再演いたします。

美術部門では、館ギャラリーの空間を活かした作品による「飯川雄大」展、記憶の修復をテーマに縫う行為を通して記憶を結び留める作品を制作する「竹村京」展、所管作品を通して当館の活動の軌跡をたどるコレクション展、静謐や質素の中に見出す日本的美意識と現代美術を思想的に関連づける「まことのはな いまようのはな」展を開催いたします。教育普及事業では、「小中学生のための学校訪問アートプログラム」、「こどもの鑑賞プログラム」など、子どもたちが現代美術に触れる多くの企画を実施いたします。

これらの事業に加え、当財団の公益目的事業として芸術評論を対象とした「吉田秀和賞」を運営いたします。

開館 36 年目を迎える水戸芸術館は、片山杜秀館長のもと、まちの発展から世界文化の発展まで大きな役割を果たしていくという視野を持って、これまで吉田秀和・小澤征爾両館長が積み重ねた活動の成果を礎に、優れた芸術作品を提供する企画事業を実施するとともに、次世代の未来を担う子どもたちの豊かな感性を育む教育普及事業を充実させるほか、「水戸市芸術祭」や広場での地域共催事業により、市民が主体となった芸術活動も促進してまいります。

また、“一まちの中へ、人のこころに一 楽しもう、アート・生活・MitoriO を”の運営方針のもと、自主企画を中心とする水戸芸術館ならではの芸術文化の創造と発信により、当館と市民会館そして京成百貨店の3つの施設から成る「MitoriO(ミトリオ)」を核として、市内の文化施設や、本年2月に開館した日本近現代の絵画やシルクロードの工芸品等を展示するクヴェレ美術館との連携を図り、相互の回遊性を促進することにより、中心市街地のより一層のにぎわいを創出してまいります。

これらの活動を通して、多くの市民の理解と支持を得ることに努め、公的支援や民間企業等の協力をより強固にし、公益財団法人としての運営の充実強化を図り、中長期的に安定した運営の確立を目指してまいります。

## ＜水戸芸術館の運営基本理念＞

- 新しい芸術文化を創造する
- 国際的な視野にたって芸術文化の交流を行う
- 楽しみながら考える
- 市民の芸術文化活動の拠点となる
- 都市の活性化に寄与する

## ＜運営方針＞

—まちの中へ、人のところに—  
楽しもう、アート・生活・MitoriOを

間口を広く、まちの発展から世界文化の発展まで、大きな役割を果たしていく

## ＜3つの事業＞

### 1 多彩で魅力あふれる企画事業

音楽、演劇、美術の各部門が、コンサートホール、劇場、現代美術ギャラリーの各専用空間を最大限に活用し、国内外で活躍するアーティストによる多彩で質の高い企画事業を制作・展開しています。

### 2 創作体験・学びの場としての教育普及事業

観客、聴衆として来館するだけでなく、創作活動に参加したいという人の意欲に応える事業や、芸術を学びたいという意欲を喚起するための手立てを、工夫をこらし実施しています。

### 3 地域との共催事業

地域の芸術家が出演・出品する事業や、地域を舞台にした公演・展覧会などを、様々な機関・団体等のまちづくりと連携して活動を展開し、都市の活性化に寄与しています。

## ＜こども芸術館＞

### 次世代を担う子どもたちに向けた事業の強化

親子や中学生以下の子どもたちを対象とする事業を「こども芸術館」として開催いたします。



水戸芸術館  
ART TOWER MITO

＜こども芸術館＞ロゴマーク



世界水準の芸術を水戸から発信することを目指した吉田秀和・初代館長、そこに親しみやすさを加え第一級の芸術を横に広げていった小澤征爾・前館長。水戸芸術館のこれまでの活動の成果をしっかりと踏まえつつ、片山杜秀館長のもと、音楽部門は一層魅力的な事業を展開してまいります。専属楽団企画など音楽芸術の核心に迫る公演事業のさらなる充実を図るとともに、地域の音楽家との共催事業や、幼児から高齢者まで様々な年齢層に対応した教育普及事業にも積極的に取り組んでまいります。

**1. 世界へ発信する専属楽団企画**

「水戸室内管弦楽団（MCO）」「カルテット AT 水戸」「新ダヴィッド同盟」による演奏会

**2. 学芸員が独自の視点で企画するオリジナル企画や定例企画**

**3. 世界で活躍する名演奏家たちを招聘する企画**

**4. 茨城の演奏家が出演する企画 ～地域の音楽文化の一層の発展を目指して～**

**5. 教育普及事業 ～魅力ある音楽体験をすべての世代へ～**

## 1. 世界へ発信する専属楽団企画

水戸芸術館は「水戸室内管弦楽団」、「カルテット AT 水戸」、「新ダヴィッド同盟」という3つの専属楽団を持つ、世界的に見てもユニークなコンサートホールです。わが国のクラシック音楽活動の精華を、水戸から世界に発信します。

### 【水戸室内管弦楽団】（Mito Chamber Orchestra 以下 MCO）とは

1990年、水戸芸術館の専属楽団として、初代館長・吉田秀和の提唱により誕生しました。世界的に活躍した指揮者の小澤征爾が、2013年水戸芸術館の館長に就任すると同時にMCOの総監督となり、存命中の2024年2月までその任にありました。メンバーは、ソリストとして、またオーケストラの首席奏者として世界的な活躍を続ける精鋭たち。指揮者を迎える演奏会とともに、指揮者を置かないアンサンブルによる演奏会にも力を入れています。

東京や大阪など水戸以外での館外公演も積極的に行っています。1998年、2001年、2008年にはヨーロッパ公演を行い、世界有数の室内管弦楽団との評価を確立しました。

教育普及事業にも継続して取り組んでいます。水戸市の全小学校と近隣市町村の小学5年生を対象にした「子どものための音楽会」をはじめ、演奏家たちが地域の子どもたちや音楽家に直接教える「MCOメンバーによる器楽セミナー」など多彩な教育プログラムを実施しています。



2024年水戸室内管弦楽団 第114回定期演奏会より ©大窪道治

5月26日(火)、27日(水)

水戸室内管弦楽団・別府アルゲリッチ音楽祭共同制作  
水戸室内管弦楽団 第117回定期演奏会

～世界を魅了し続けているマルタ・アルゲリッチが、創立36年を迎えるMCOと魅せる演奏会!～



2025年 水戸室内管弦楽団第115回定期演奏会より ©大窪道治

2017年以降、水戸室内管弦楽団(MCO)と共演を重ねてきた“鍵盤の女王”が、実に8度目の登場。今回共演する作品は、ベートーヴェンの〈ピアノ協奏曲 第1番〉です。円熟を極めたアルゲリッチの芸術とMCOのしなやかで力強いアンサンブルが響き合います。

ピアノ：マルタ・アルゲリッチ

#### 曲目

ラヴェル：亡き王女のためのパヴァーヌ

チャイコフスキー：弦楽セレナード 作品48

ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 第1番 八長調 作品15

#### 【館外公演】

別府アルゲリッチ音楽祭・水戸室内管弦楽団共同制作

室内オーケストラ・コンサート

日時：5月29日(金)

会場：iichiko 総合文化センター iichiko グランシアタ

主催：(公財)アルゲリッチ芸術振興財団

10月23日（金）、24日（土）  
水戸室内管弦楽団 第118回定期演奏会

～初共演のピンカス・ズーカーマンとともに、ベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲に初めて挑む～



ピンカス・ズーカーマン ©Cheryl Mazak

稀代のヴァイオリニスト、ピンカス・ズーカーマンを初めて迎え、すべてベートーヴェン—2027年に没後200年—の作品によるプログラムをお届けします。とくに、〈ヴァイオリン協奏曲〉はMCOにとっても初挑戦となるレパートリー。いったいどのような化学反応が起きるか、お楽しみに。

ヴァイオリン：ピンカス・ズーカーマン

曲目

オール・ベートーヴェン・プログラム

- ・《プロメテウスの創造物》作品43より 序曲
- ・交響曲 第1番 八長調 作品21
- ・ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61



## 水戸室内管弦楽団

### 名誉総監督

吉田秀和  
小澤征爾

### 名誉顧問

小口達夫

### 楽団長

堀 伝

### 芸術主幹

原田禎夫\*

### 楽団員代表

猶井正幸

### 名誉楽団員

工藤重典（フルート）  
水野信行（ホルン）  
宮本文昭（オーボエ）

### メモリアルメンバー

潮田益子（ヴァイオリン）  
江戸純子（ヴィオラ）  
ローランド・アルトマン  
（ティンパニ）

### ヴァイオリン

フェデリコ・アゴスティーニ★  
小栗まち絵  
川崎洋介  
佐份利恭子  
島田真千子  
ジュリアン・ズルマン★  
竹澤恭子  
田中直子\*  
豊嶋泰嗣\*  
中村静香

### ヴィオラ

川崎雅夫  
川本嘉子  
店村眞積\*

### チェロ

上村 昇  
宮田 大

### コントラバス

池松 宏

### フルート

セバスチャン・ジャコー

### オーボエ

フィリップ・トーンデュル\*

### クラリネット

リカルド・モラレス

### ホルン

猶井正幸\*  
ラデク・ハボラーク

### ステージマネージャー

佐藤昌樹

★新メンバー

\*運営委員

協賛：株式会社アンドエスティ HD、NEC、水戸証券（株）、（公財）げんでんふれあい茨城財団、  
（株）吉田石油、水戸京成ホテル

協力：全日本空輸（株） 後援：（株）茨城新聞社、水戸商工会議所

## 【カルテット <sup>アット</sup> AT 水戸】

2023年、当館の専属楽団として、水戸室内管弦楽団ならびにオタワ・ナショナル・アーツセンター管弦楽団のコンサートマスターを務める川崎洋介を中心として、室内楽の名手4名で活動を開始した弦楽四重奏団。弦楽四重奏の名曲をお届けするのはもちろん、まだ知られていない優れた作品の紹介にも力を入れています。また、地域の子どもたちや福祉施設を対象にした教育活動・アウトリーチ活動も継続的に行っています。

7月18日(土)

## カルテット <sup>アット</sup> AT 水戸 第4回演奏会

～ドビュッシーやベートーヴェンの名作とともに、没後30年を迎える武満作品を演奏～



2025年、第3回演奏会 ©田澤 純

川崎洋介（ヴァイオリン）、西野ゆか（ヴァイオリン）、柳瀬省太（ヴィオラ）、辻本 玲（チェロ）

メンバー同士の息がピッタリと合った極上のアンサンブルや、曲に懸ける想いを親しみやすく語るトークに、毎年好評をいただいている水戸芸術館専属楽団「カルテット AT 水戸」。今年はドビュッシーやベートーヴェンの名作とともに、没後30年を迎える邦人作曲家・武満徹の作品を交えて、第4回演奏会に臨みます。

**出演：**カルテット AT 水戸

川崎洋介（ヴァイオリン）、西野ゆか（ヴァイオリン）、  
柳瀬省太（ヴィオラ）、辻本 玲（チェロ）

**曲目：**

ドビュッシー：弦楽四重奏曲 ト短調

武満 徹：ア・ウェイ・ア・ローン

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲 第9番 ハ長調 作品59の3〈ラズモフスキー 第3番〉

## 【新ダヴィッド同盟】 New “Davidsbündler”

2010年、吉田秀和初代館長の命名により当館の専属楽団として結成されました。メンバーは、日本を代表するヴァイオリニストの一人、庄司紗矢香を中心に、庄司の呼びかけで集まった気心知れた音楽仲間たち。みな世界各地から水戸に集まり、密度の濃いリハーサルを徹底的に行って演奏会に臨みます。

日程調整中

## 新ダヴィッド同盟 第9回演奏会



2025年、第8回演奏会 ©田澤 純

庄司紗矢香（ヴァイオリン）、磯村和英（ヴィオラ）、北村 陽（チェロ）、小菅 優（ピアノ）

## 2. 学芸員が独自の視点で企画するオリジナル企画や定例企画

音楽部門学芸員が社会的意義や地域の皆様のニーズをふまえながら独自の視点で企画・制作するオリジナル企画や、ご好評につき毎年行っている定例企画です。

9月26日（土）

武満徹の肖像

～武満徹没後 30 年記念企画～

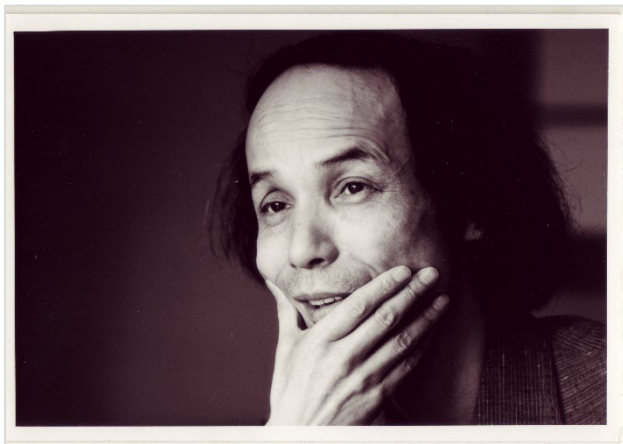


Photo: Schott Music Co. Ltd.,

現代作曲家の創作の軌跡を辿る「作曲家の肖像」シリーズ。今回は、水戸芸術館とも縁が深く、日本人作曲家として最も大きな存在である武満 徹の室内楽作品や歌曲を特集します。

曲目：妖精の距離、  
          ピトゥイーン・タイズ  
          エア  
          SONGS 〈小さな空〉 他

出演：波多野睦美（メゾ・ソプラノ）  
          高木綾子（フルート）  
          北村朋幹（ピアノ）  
          山澤 慧（チェロ） 他

ナビゲーター：片山杜秀

10月4日（日）

伝統芸能のススメ [雅楽]

今昔雅楽集 四、秋庭歌一具

～武満徹没後 30 年記念企画～



2017 年公演 ©田澤 純

雅楽の古典と現代曲を集めた「今昔雅楽集」シリーズ。今回の前半では、武満徹が宮内庁で初めて聴いた雅楽演奏会の曲目を再現し、そこで感銘を受けた笙が使われた室内楽曲〈ディスタンス〉を間に挟みます。後半には、武満の生涯で最長の作品、雅楽〈秋庭歌一具〉を上演します。

曲目：  
雅楽古典曲：合歓塩、嘉辰、抜頭、還城楽  
武満徹：ディスタンス、秋庭歌一具  
出演：伶楽舎、荒木奏美（オーボエ）

日程調整中

## 講座 片山館長と「めぐる」シリーズ



©田澤 純

片山杜秀館長を講師に迎え、音楽や芸術にまつわるテーマを毎回設定して学びを深めていく講座企画。初回となる今年は、没後30年を迎える「武満徹」をテーマとした講座を予定しています。

12月13日(日)

## 水戸の街に響け！ 300人の《第九》2026

会場：広場（雨天の場合、コンサートホール ATM）

～師走の空に、市民による大合唱が響く～



2025年公演

一般公募の市民など約300名の大合唱団が、9月から練習を重ね、シンボルタワーの下、水戸の街に壮大な歌声を響かせるという、全国的に見ても類例のない企画です。今年で23回目を迎えます。

12月19日(土)

## クリスマス・プレゼント・コンサート 2026

～毎年恒例！ クリスマスの夜を彩るガラ・コンサート～



2025年公演 ©田澤 純

さまざまな楽器・編成から、実力ある人気演奏家たちが集い、クリスマスの気分を盛り上げるガラ・コンサート。今年も、日本を代表する作曲家であり、水戸出身の池辺晋一郎の企画・司会でお贈りします。恒例のクリスマス・プレゼント・コーナーも予定しています。

企画・司会：池辺晋一郎

### ●その他の教育普及事業

4月12日(日)

作曲家・池辺晋一郎

生家ピアノ修復記念講演会 会場：佐川文庫



水戸出身の作曲家・池辺晋一郎が、生家で使用していたアップライトピアノの修復を記念し、自身の作品や音楽経験について語ります。さらに、池辺氏の思い出のピアノ作品の演奏をとおして、このピアノの音をお楽しみいただけます。

## ちょっとお昼にクラシック シリーズ

～昼下がりに約 1 時間、気軽にクラシック音楽をお楽しみいただける人気シリーズ～

7月2日（木）

児玉麻里&児玉桃

～千紫万紅 ピアノ・デュオ～



ヨーロッパを拠点に国際舞台で活躍するピアニストの姉妹、児玉麻里と児玉桃の豪華デュオ。プログラムは、色彩豊かでエネルギッシュなバレエ音楽の名作群です。チャイコフスキーの〈白鳥の湖〉と〈くるみ割り人形〉。そして、20世紀以降の新しい音楽の扉を開いたストラヴィンスキーの傑作〈春の祭典〉が取り上げられます。

9月12日（土）

塚谷水無子(鍵盤楽器)

～“ケンバニスト”のおもちゃ箱～



パイプオルガンを軸に多彩な鍵盤楽器を自在に操る“ケンバニスト”（鍵盤楽器奏者）塚谷水無子が登場。ステージにはおもちゃ箱をひっくり返したように、チェンバロ、ポジティブ・オルガン、グランドピアノ、トイピアノ……様々な鍵盤楽器が並びます。バッハやヘンデルなどバロック音楽の名曲を中心に、鍵盤楽器の魅力を1時間に詰め込んでお届けします。

2月調整中

中村静香(ヴァイオリン)他

～水戸室内管弦楽団の楽団員による室内楽の魅力をお届け～



©Akira Muto

水戸市内および近隣市町村の中学1年生をコンサートホールに招く「中学生のための音楽鑑賞会」と同じ内容を、一般にも公開するコンサート。今回はMCOのヴァイオリン奏者の中村静香を中心に、クラリネット・ピアノとのトリオの編成による室内楽のアンサンブルをお届けする予定です。

### 3. 国際舞台の最前線で活躍する名演奏家たちを招聘する企画

国際舞台の最前線で活躍する当代を代表する名演奏家たちを水戸に招聘します。地域の方のご要望やその演奏家の魅力が最大限に伝わるような内容をアーティスト側と協議し、水戸芸術館ならではのプログラムをご提供します。

4月5日（日）

クリストフ・プレガルディエン（テノール）& 渡邊順生（フォルテピアノ）  
～30年前、水戸芸術館でシューベルト《冬の旅》の名唱を聴かせた名歌手が帰ってくる～



希代の名テノールが我が国を代表するフォルテピアノ奏者とシューベルト《白鳥の歌》ほかを演奏します。渡邊が今回弾くフォルテピアノはナネット・シュトライチャーが1818年に製作した楽器。19世紀初めのウィーンにおける最高の楽器製作者とも言われますが、現存数は少なく、生でその素晴らしい音に触れられる貴重な機会となります。

曲目：シューベルト：歌曲集《白鳥の歌》  
ほか

10月12日（月・祝）

宮田 大（チェロ）

～宮田 大が満を持して挑む無伴奏リサイタル～



©日本コロムビア

群雄割拠の日本チェロ界にあって、トップをひた走る一人が宮田 大です。MCO メンバーとしてもおなじみの存在である宮田が、水戸芸術館では9年ぶりとなる本格リサイタルで挑むのは、満を持しての無伴奏公演です。

曲目

カザルス：鳥の歌

J.S.バッハ：無伴奏チェロ組曲第1番  
ト長調 BWV1007

ブリテン：無伴奏チェロ組曲第1番  
作品72

11月8日(日)

内田光子(ピアノ)

～日本が誇る稀代のピアニスト～



内田光子 Decca/© Justin Pumfrey

小澤征爾・前水戸芸術館館長と並んで、世界の頂点に登り詰めた日本人演奏家が内田光子さんです。彼女は自身の演奏の完成度を最優先するために、コンサートの回数と会場を制限しています。それだけに、世界中のホールが内田さんの招聘を望んでいます。その中で水戸芸術館では継続的にリサイタルを開催しています。

曲目：

シューベルト：ピアノ・ソナタ

第20番 D959 ほか

11月20日(金)

レ・ヴァン・フランセ(木管五重奏とピアノ)

～世界最高峰の木管アンサンブルが8年ぶりに登場～



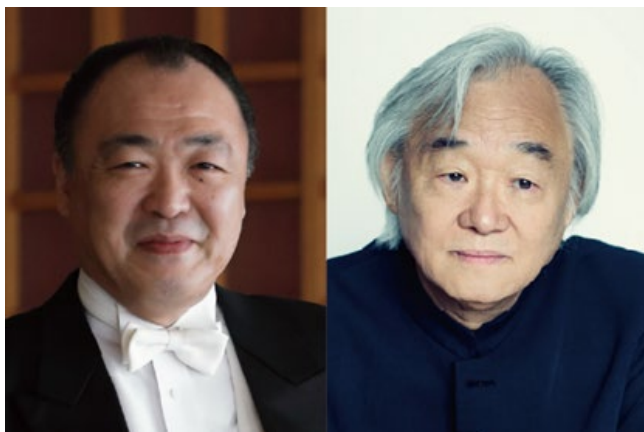
©Warner Classics

E.パユ、P.メイエをはじめ、世界の第一線で活躍する5人の木管楽器奏者とピアニスト、E.ルサーージュによるアンサンブル「レ・ヴァン・フランセ」(フランスの風)。フランスの室内楽の伝統を受け継ぎ、さらに進化し続ける木管アンサンブルの精妙で多彩な響きをお楽しみください。曲目等は現在調整中。

12月15日(火)

豊嶋泰嗣(ヴァイオリン) & クンウー・パイク(ピアノ)

～MCOのリーダーが韓国の巨匠ピアニストと共演～



水戸室内管弦楽団のコンサートマスターとして、小澤征爾名誉総監督の遺志を継いで、これからの楽団を牽引する豊嶋泰嗣。彼のデビュー40周年の記念リサイタルを、韓国の巨匠ピアニストで、パリ在住のクンウー・パイクを迎えて開催します。

曲目：

オール・ブラームス・プログラム

ヴァイオリン・ソナタ第1～3番などを予定

1月

庄司紗矢香(ヴァイオリン) & 鈴木優人(チェンバロ)

～初顔合わせ！円熟を迎えつつある二人の音楽家による期待のデュオ～



庄司紗矢香は、パリを拠点に主にヨーロッパで活躍するヴァイオリン奏者。水戸芸術館では「新ダヴィッド同盟」の中心メンバーとしてもおなじみで、定期的なリサイタルも開いています。

鈴木優人はチェンバロに限らず、指揮やプロデュース業などでも活躍する音楽家。水戸芸術館では「バッハをとりまく音楽のシリーズ」を継続中です。

思いもよらなかったこの二人のデュオが水戸芸術館で実現します。プログラムは検討中ですが、バッハ以前のバロック音楽が中心になりそうです。ご期待ください。

#### 4. 茨城の演奏家が出演する企画 ～地域の音楽文化のいっそうの発展を目指して～

4月11日（土）

##### 茨城の名手・名歌手たち 第34回出演者オーディション

～茨城から羽ばたく才能を発掘～

茨城県にゆかりのある優れた演奏家を発掘・紹介する演奏会のオーディション。1990年の開館から継続して行っているこの企画からは、全国的に活躍する演奏家も数多く輩出しており、演奏家の登竜門としても注目されています。

審査部門：管楽器、打楽器、声楽（以上ソロ）、器楽アンサンブル（2人～8人）

11月29日（日）

##### 茨城の名手・名歌手たち 第34回演奏会

～茨城から羽ばたく才能を広く紹介～



2024年公演 ©田澤 純

4月のオーディションに合格した演奏家たちが出演するガラ・コンサート。司会はMCO元オーボエ奏者の宮本文昭（オーディション審査委員）が務めます。

日程調整中

##### 第16回 佐川文庫

##### 茨城の名手・名歌手たち 藝文コンサート

～茨城ゆかりの演奏家によるサロン・コンサート～



2024年公演 佐川文庫木城館にて ©田澤 純

佐川一信元水戸市長のメモリアルホールである佐川文庫において、当館のオーディション企画「茨城の名手・名歌手たち」に合格した実績のある若手演奏家の方々を広く紹介します。常陽藝文センターとの共催です。

## 茨城の演奏家による演奏会企画

茨城県内を拠点に活動する演奏家の方々が、企画・出演する演奏会です。  
今年度は、9企画を開催します。



- |                            |             |
|----------------------------|-------------|
| ・アルモニア Rosa (女声合唱)         | 5月10日(日)    |
| ・東海林一代&小林萌里(箏とピアノ)         | 6月28日(日)    |
| ・あひる会合唱団(混声合唱)             | 7月12日(日)    |
| ・コンサートシリーズ Mit(ピアノ三重奏)     | 9月          |
| ・トロンボーンアンサンブル塩!            | 11月1日(日)    |
| ・田中宏明(ピアノ)                 | 11月23日(月・祝) |
| ・茨城キリスト教学園中学校高等学校コーラス部(合唱) | 12月25日(金)   |
| ・埴 美里(サクソフォン)              | 3月14日(日)    |
| ・野口わかな(ヴァイオリン)             | 日程調整中       |

## 広報誌の編集・発行

水戸芸術館音楽紙 vivo (ヴィーヴォ)



演奏会情報や出演者のインタビュー、制作秘話など、学芸員ならではの視点で掲載する広報誌の編集・発行を通年で行っています。

## ラジオ番組

水戸芸術館 presents みんなのクラシック

毎週日曜 7:30~8:00 Lucky FM 茨城放送



音楽部門学芸員が様々なテーマでおすすめの曲を紹介し、クラシック音楽の魅力をお届けします。

## 5. 教育普及事業 ～魅力ある音楽体験をすべての世代へ～

子どもたちの発達段階に応じた音楽鑑賞プログラム、子どもたちや市民の音楽活動を支援する教育プログラム、クラシック音楽初心者の方でもお楽しみいただける入門的なプログラムなど、すべての世代に向けて、多彩なプログラムを用意しています。

### ●水戸室内管弦楽団 教育普及事業

10月22日（木）

水戸室内管弦楽団 子どものための音楽会

会場：リリーアリーナ MITO

～オーケストラの生演奏を2,500人の子どもたちに～



2025年公演 ©田澤 純

子どもたちにオーケストラの生演奏の感動を届けたいと願い、MCOが水戸市内・近郊の小学5年生約2,500名を対象に、トークと楽器紹介を交えて音楽会を行います。20回目を迎える今回は、第118回定期演奏会の開催にあわせて行います。

主催：（公財）水戸市芸術振興財団、  
水戸市教育委員会

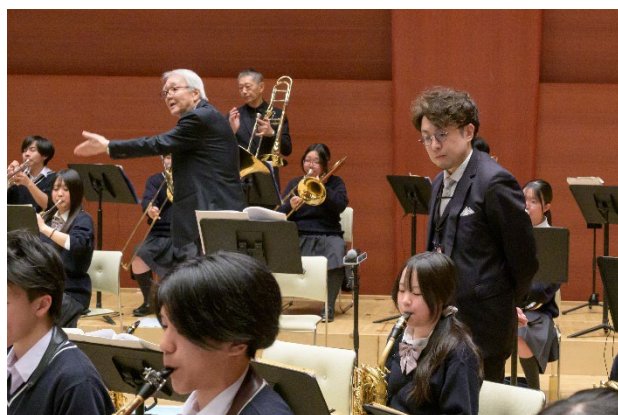
共催：（公財）げんでんふれあい茨城財団

1月30日（土）・31日（日）

水戸室内管弦楽団メンバーによる公開レッスン&ミニコンサート

会場：ザ・ヒロサワ・シティ会館（茨城県立県民文化センター）

～茨城県で活動する演奏団体の演奏をMCOメンバーが指導～



2026年 ©田澤 純

MCOの管打楽器奏者たちが、県内の吹奏楽団やオーケストラを指導する公開レッスンです。年ごとに県内の各地域を巡回して開催しており、今年度は県央地域を対象に、水戸市で開催します。

共催：茨城県

日程調整中

## MCO セミナー・ウインズ 2027

～MCO メンバーとセミナー受講団体の合同コンサート～



2025年 ©田澤 純

公募で選ばれた県内の管楽器アンサンブル（高校生～一般。三～八重奏程度）が、MCO の管楽器奏者たちのレッスンを受講し、その成果を披露するコンサートです。講師と受講者全員での合奏もあります。

共催：茨城県

日程調整中

## 水戸室内管弦楽団メンバーによる小中学生吹奏楽セミナー

～世界トップレベルの音楽家が地域の子どもたちを直接指導～



2025年 ©田澤 純

水戸市の小中学校吹奏楽部や金管バンド部などを対象にコンサートホール ATM で、MCO メンバーが演奏を指導します。子どもたちの演奏技術の向上、および MCO と地域との交流を目的に実施している教育プログラムです。

共催：水戸市教育委員会

## ●子どもたちの発達段階に応じた音楽鑑賞プログラム

8月9日（日）

三部門合同子ども企画〈こども芸術館〉サマー・フェス2026

0歳からのオルガン・コンサート

～親子で楽しくコンサートホールデビューしませんか～



2025年公演 ©田澤 純

赤ちゃんから参加できる、小型オルガンの音楽会。子どもたちに大人気のオルガニスト・浅井美紀、そして今回は当館専属楽団の水戸室内管弦楽団でも活躍しているトランペット奏者・若林万里子を迎えて、オルガンとトランペットによる華やかなコラボレーションをお贈りします。

通年（月1～2回）

幼児のためのパイプオルガン見学会

～楽器の王様・パイプオルガンを、楽しく体験～



2018年 ©田澤 純

市内の幼稚園、保育所（園）、こども園の幼児を対象に、パイプオルガンを気軽に楽しんでいただく企画。休館日に行っており、年間約1,400名、これまで21,000人以上の子どもたちが参加している人気プログラムです。

2月

中学生のための音楽鑑賞会2027

～市内の中学生2,000名が一流の演奏を楽しく鑑賞～



2026年公演 ©田澤 純

MCOのメンバーなどによる演奏とトークを通してクラシック音楽に親んでもらう音楽鑑賞会。1992年から開催しており、毎年水戸市内の中学1年生約2,000名が参加しています。今年度はヴァイオリン奏者の中村静香を中心とした室内楽を、水戸市の近隣市町村の中学生も招いてお届けする予定です。

## ●市民の音楽活動を支援する教育プログラム

11月13日（金）

### 中学校 合唱の祭典

～市内中学校の合唱コンクールの成果を披露～

市内の各中学校・義務教育学校の合唱コンクールで最優秀に選ばれたクラスや代表団体が一堂に会し、その成果を披露します。演奏会の準備と運営も、中学生によるプロジェクト委員が担当します。より沢山の子どもたちに、当館コンサートホールのステージで演奏する楽しさを知ってもらいたいと2014年から今年で9回目の開催となります。

共催：水戸市教育委員会



12月5日（土）

### 市内小中学校 芸術館コンサート 2026

～水戸市内の子どもたちによるステージ～



2025年公演 ©田澤 純

市内の小・中学校の吹奏楽、アンサンブル、合唱などの各団体による演奏会で、日頃の練習成果を発表する機会です。MCOの管楽器奏者などが演奏会に立ち会い、講評を行います。



9月～3月

### 市民のためのオルガン講座

～国産最大級のパイプオルガンを弾いてみる～



2024年 ©田澤 純

多彩な音色を持つ、国産最大級のパイプオルガンを弾いて楽しむ講座。実技レッスンでは、基礎から学ぶ「初級」と、さらに学びを進める「中級・上級」、そして気軽に1時間体験できる「一回体験」があります。講師は、全国各地で活躍するオルガニストで、元当館音楽部門主任学芸員の室住素子が務めます。

2月

## 合唱セミナー 2027

～合唱の楽しみを広げよう～



2026年 ©田澤 純

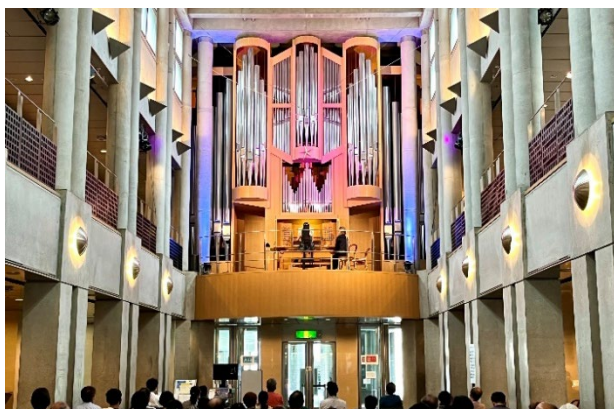
地元の合唱愛好家の方々を対象としたセミナーです。毎回、日本を代表する合唱指揮者や作曲家を講師に迎え、課題曲を半日かけて練習します。

共催：茨城県合唱連盟、  
茨城県高等学校文化連盟、  
茨城県高等学校教育研究会音楽部

通年（月2回程度）

## パイプオルガン・プロムナード・コンサート

～国産最大級のパイプオルガンを無料で楽しめるコンサート～



2022年公演 ©田澤 純

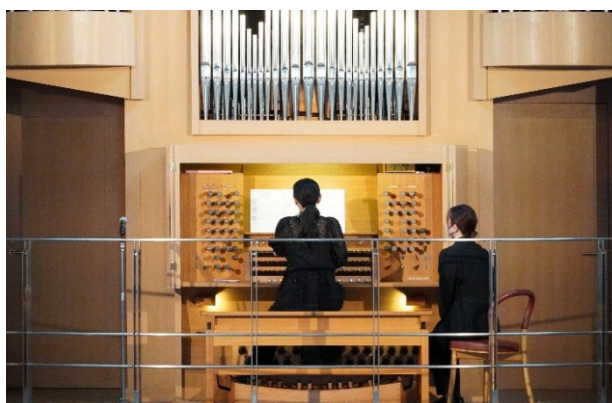
エントランスホールに設置された国産最大級（パイプ総数 3,283 本）のパイプオルガンの音色を気軽に楽しみいただける、週末お昼の無料コンサート。パイプオルガン以外の器楽や声楽をとりあげる「プロムナード・コンサート EXTRA（エクストラ）」も開催します。

8月

## ぴ～すプロジェクト

### 平和作文朗読発表会とパイプオルガン・プロムナード・コンサート

～戦争と水戸空襲の記憶を若い世代に～



2025年公演 ©田澤 純

「戦争」と「水戸空襲」の記憶を若い世代に伝えるため、水戸市平和記念館、水戸市立博物館、水戸芸術館の3館が連携して開催するプロジェクト。当館では平和作文コンクールで優秀な成績を収めた小中学生の朗読発表とパイプオルガンの演奏をお聴きいただきます。

共催：水戸市



劇場という場所で、地域のみなさんを元気に、  
そして豊かにしていきたい！  
舞台、劇場の持っている“力”を活かして、  
“公共”劇場の役割を果たしていきます

1. 劇場の特性を活かしたレパートリー作品づくり「水戸芸術館プロデュース公演」
2. 誰もが楽しめる、そして伝えていきたい「伝統芸能のススメ」
3. 最先端で良質な舞台作品を紹介する「招聘公演」
4. 水戸の映像・映画文化の発展を目指す「水戸映画祭」
5. 楽しみながら学んでいく「アート教育プログラム」(教育普及事業)

## 1. 水戸芸術館プロデュース公演

水戸芸術館 ACM 劇場は、企画内容によって客席数を最適化し、臨場感溢れる観劇環境で、地域の皆様に興味を持っていただけるオリジナル作品を上演します。近年は、特に次世代の子どもたちのための活動に力を入れており、地域の実情とニーズに沿ったオリジナル作品を企画しています。

10月30日（金）～11月1日（日）

音楽劇『夜のピクニック』

会場：水戸市民会館グロービスホール（大ホール）

～水戸芸術館を代表するレパートリー作品の再々演が決定～



『夜のピクニック』2020年舞台写真 ©刑部アツシ

一昼夜をかけて約70キロを歩く水戸第一高等学校の「歩く会」をモチーフに、同校卒業生の作家・恩田陸が書いた小説「夜のピクニック」。

脚本を初演当時の演劇部門芸術監督であった高橋知伽江が担い、演出に水戸市出身の深作欣二を父にもつ深作健太、そして作曲・音楽監督として扇谷研人を迎え、2016年9月に音楽劇『夜のピクニック』を上演。大きな反響を呼び、急遽発売された追加公演も完売、のべ3000名のお客様にご覧いただきました。

その後、水戸芸術館開館30周年記念事業として再演された2020年版は厳しい感染症対策が施される中での上演となりました。稽古にも演出にも多大な制限が課される中、全公演完売し、多くのお客様に観劇いただきました。

地域の多くの方々から熱望され、満を持しての再々演となります。水戸芸術館を代表するレパートリーとなった本作を、モデルとなった同校出身の三森千愛を迎えるなど、装いも新たにスケールアップし、水戸市民会館グロービスホール（大ホール）にて上演いたします。中心市街地の活性化と、若者に観劇の機会を提供することを大きな目的に開催します。

原作：恩田 陸「夜のピクニック」（新潮文庫刊）

脚本：高橋知伽江

演出：深作健太

作曲・音楽監督：扇谷研人

出演：吉川 友、加藤良輔、安達勇人、三森千愛、劇団 ACM、剣 幸（特別出演） ほか

水戸公演：1月29日（金）～31日（日）、2月5日（金）～7日（日）

東京公演：2月11日（木・祝）～14日（日）

新しいシェイクスピア劇の創造事業

『ハムレット』

会場：水戸芸術館 ACM 劇場、東京芸術劇場シアターイースト

——生きるべきか、死ぬべきか、迷い続ける王子の運命はいかに——



『ロミオとジュリエット』2025年より ©刑部アツシ

昨年度上演した『ロミオとジュリエット』に続き、いよいよ『ハムレット』が登場します。新進気鋭の翻訳家・小田島創志による新翻訳、そして若き演出家・大澤 遊を迎えて、現代社会にも通じる新しいシェイクスピア劇の創造にご期待ください。出演は、ベテランの久保井 研、荒谷清水、元宝塚歌劇団月組男役トップスターの珠城りょうを迎え、演劇界の期待の俳優、池岡亮介、湯川ひななどにより、『ハムレット』の作品世界に新しい風を吹き込みます。

原作：ウィリアム・シェイクスピア

翻訳：小田島創志

演出：大澤 遊

振付・ステージング：水中めがね∞

出演：池岡亮介、珠城りょう、久保井 研、荒谷清水、湯川ひな、加藤良輔、阿岐之将一、八頭司悠友、大石英玄、西奥瑠菜、塩谷亮、大内真智、小林祐介、松田洋治

5月2日(土)～10日(日)

ゆうくんとマットさんのむかしばなし『さんまいのおふだ』

～ゴールデンウィークに子どもの観劇デビュー！親子で楽しめる舞台シリーズ～



子どもたちに大人気の読み聞かせユニット「ゆうくんとマットさん」の舞台シリーズ。今年もお客様が参加できるコーナーや楽しい工夫が盛りだくさんな、小さなお子さまの観劇デビューにぴったりな舞台をお届けします。このユニットで初めての「むかしばなし」に挑戦します！

脚本・構成・演出：Ukm3

出演：ゆうくんとマットさん（小林祐介・大内真智）、堀口理恵、木村隆之

毎月1回開催

ゆうくんとマットさんの「おはなしキャリーボックス」(入場無料)

～ゆうくんとマットさんと一緒に、素敵な絵本の世界を楽しもう～



絵本の読み聞かせを毎月1回、水戸芸術館コーヒーラウンジなどにて開催します。ご家族で楽しく過ごせる時間です。

ゆうくんとマットさんとは

東日本大震災をきっかけに、水戸芸術館専属劇団 ACM メンバーの小林祐介と大内真智が結成した絵本の読み聞かせユニット。様々な場所に出張して読み聞かせを行う「おはなしキャリーボックス」のほか、ACM 劇場にて舞台公演を行っています。

7月25日(土)～29日(水)  
谷川俊太郎の「ことば」と「おと」

『いつだって今だもんーきのうとあしたのラブストーリーー』



～谷川俊太郎作品の世界を子どもも大人も一緒に楽しむ舞台～



昨年亡くなった詩人・谷川俊太郎作の舞台を、作曲家・ピアニストであるご子息の谷川賢作の音楽にのせて、水戸芸術館とも縁の深い橋本昭博の演出で、大人も子どもも一緒に楽しめる舞台として上演します！

脚本：谷川俊太郎

演出・脚色：橋本昭博

音楽：谷川賢作

11月28日(土)、29日(日)、12月5日(土)、6日(日)  
ACMファミリーシアター『スーホの白い馬』

～子どもだけでなく大人の心にも響く舞台を！

家族で一緒に楽しめる ACM ファミリーシアター・シリーズ～



『スーホの白い馬』2021年公演 ©刑部アツシ

再話：大塚勇三

脚本・演出：長谷川裕久

ステージング：根本紳平（水中めがね∞）

出演：根本紳平、劇団 ACM ほか

絵本や児童文学を原作に、家族で楽しめる作品を上演してきたACMファミリーシアター・シリーズ。今年は、2021年・2022年に上演し好評を博した「スーホの白い馬」を、新キャストとともに更に進化させ、再び上演します。草原の国を舞台に、少年スーホと白い馬の絆を描いた、哀しくも美しい物語。子どもにも大人にも、心に響く舞台をお届けします。

※本公演は水戸市立小学校の4年生をACM劇場に招待して生の演劇を見ていただく「小学生のための演劇鑑賞会」として、上記日程以外にも公演を行います。(37ページ掲載)

12月19日(土)、20日(日)  
ミュージカル『拝啓 ナイチンゲール様』

～日本看護師の黎明期を描くオリジナルミュージカル～



2025年8月ミュージカルアカデミープレ公演  
「拝啓 ナイチンゲール様」より

明治～昭和にかけて、看護を通して女性たちが自らの運命を切り開いていった実話をもとに、日本を代表するクリエイターが集結して、新たに生み出すオリジナルミュージカルをお届けします。

※岡山芸術創造劇場ハレノワのプロデュース作品を、水戸芸術館との連携で上演します。

原案：田中ひかる『明治のナイチンゲール 大関和物語』（中央公論新社刊）

脚本・作詞：高橋知伽江

作曲・音楽監督：深沢桂子

演出：眞鍋卓嗣（俳優座）

## 2. 伝統芸能のススメ

伝統芸能をたっぷり堪能できる人気企画。定期開催となっている狂言公演の他に、人気のある落語家の独演会など一年間を通して楽しめるプログラムとなっています。

4月18日(土)

伝統芸能のススメ [狂言]

野村万作抄 32

～人間国宝・野村万作と様々な領域で活躍する野村萬斎・裕基の三世代競演～



笑いの伝統芸能、狂言の魅力が詰まった演目をご堪能ください。小舞『田植』、野村萬斎・裕基の親子による狂言『清水座頭』、人間国宝・野村万作による狂言『縄綱』をお届けします。

出演：野村万作、野村萬斎、野村裕基 ほか

5月17日(日)

伝統芸能のススメ [落語]

柳家さん喬独演会

～きめ細やかな話芸で観客の心を魅了する、名人・柳家さん喬～



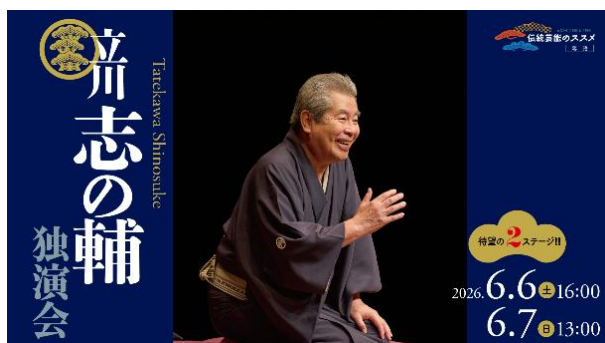
滑稽話から涙を誘う人情話まで、きめ細やかな話芸で観客の心を魅了する、名人・柳家さん喬。円熟の語りをご堪能ください。

6月6日(土)、7日(日)

伝統芸能のススメ [落語]

立川志の輔独演会

～進化し続ける“志の輔らくご”、2日間連続公演！～



当代随一の人気と実力を誇る、立川志の輔落語に新しい息吹を吹き込み、進化し続けるその話芸で、年齢を問わず多くの観客を魅了しています。

今年は多くの皆様からのリクエストにお応えし、2日間の連続公演を行います。

9月13日(日)  
伝統芸能のススメ [狂言]  
萬狂言水戸公演

～笑いの伝統芸能“狂言”の魅力を存分に堪能～



和泉流狂言の名家、野村万蔵家の狂言師による「萬(よろず)狂言」。

96歳の野村 萬、万蔵家を率いる当主万蔵、そして次代を担う万之丞、三世代にわたる競演で、今年も狂言の魅力を存分に堪能していただける公演をお贈りします。

出演：野村 萬、野村万蔵、野村万之丞 ほか

1月10日(日)  
伝統芸能のススメ [落語]  
桂宮治独演会

～「笑点」大喜利レギュラー出演など大活躍中！話題満載の噺家です～



桂宮治自身により演出されたシアトリカルな落語の独演会。人気テレビ番組「笑点」ではみることのできない桂宮治渾身の落語を劇場ならではの空間でお楽しみいただけます。

2月28日(日)  
伝統芸能のススメ [落語]  
柳家三三<sup>さんざ</sup>独演会

～ますます磨きがかかった古典落語の名人芸～



端正で切れ味のよい語り口で、観客をあっという間に江戸落語の世界に誘う巧みな話芸。

常に挑戦を続ける古典落語の名手が、今年も ACM 劇場に登場します。

3月27日(土)  
伝統芸能のススメ [落語]  
柳家花緑独演会

～古典から新作まで、今年もあの歯切れのよい語り口をお楽しみに～



©ヤナガワゴース!

水戸芸術館のラインナップにはなくてはならない演者の一人。  
幅広い斬で観客を魅了する落語界のプリンスが今年度もやってきます。

\*以下、日程調整中の公演です

伝統芸能のススメ [落語]  
春風亭昇太独演会

～抱腹絶倒の昇太ワールドを堪能～



登場ただけで会場が明るくなる、今やテレビ「笑点」だけでなく、落語界の“顔”ともいべき春風亭昇太。今年もエネルギーで抱腹絶倒の昇太ワールドをお楽しみください。

伝統芸能のススメ [講談+落語]  
講談師 松林伯知の会

～水戸市三の丸出身の講談師の水戸芸術館特別公演～



©刑部アツシ

真打昇進&襲名披露公演が好評だった松林伯知自身が主任となり、講談を楽しめる特別公演を企画します。

### 3. 招聘公演

日本各地の創造発信型の公共劇場やプロダクションが製作する良質でオリジナリティの高い作品を、地域の皆様に紹介する招聘企画。今の時代だからこそ見逃せない企画もあれば、誰もがいつでも楽しめる作品まで、幅広く作品を紹介いたします。  
演劇により時代の空気も体感できる粒揃いのラインナップです。

7月7日（火）

『罨一わなー』

～「演劇界のヒッチコック」と呼ばれたロベール・トマ屈指の名作が豪華キャストで蘇る～



「あなたの妻だ」と言って現れたのは、知らない女性だった…！ 本音と嘘、安心と恐怖、信頼と疑惑、男女6人の光と影が交錯する衝撃のサスペンス劇！

「演劇界のヒッチコック」と呼ばれたロベール・トマ屈指の名作が、上川隆也、藤原紀香など豪華キャストで蘇ります。

作：ロベール・トマ

翻訳：平田綾子

演出：深作健太

出演：上川隆也、藤原紀香、渡辺 大、財木琢磨、  
須藤理彩、藤本隆宏

8月5日（水）、6日（木）

シス・カンパニー『プライマ・フェイシー私の声を聞いてー』

～全世界を席卷した衝撃の一人芝居、ついに日本上陸！～



勝利を追い求める気鋭の法廷弁護士テッサ(三浦透子)。しかし、ある日、一転して被害者の立場に立たされてしまう極限の感情の中、自分の「声」に向き合い、選んだ道は…？

日本演劇界を牽引する演出家の一人である栗山民也の演出により三浦透子が初の一人芝居に挑みます。

作：スージー・ミラー

演出：栗山民也

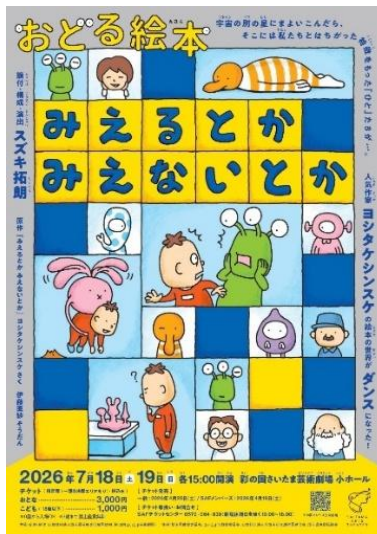
出演：三浦透子

9月5日(土)、6日(日)

おどる絵本『みえるとか みえないとか』



～人気絵本作家 ヨシタケシンスケの絵本の世界が色彩豊かな舞台作品に！～



©大洞博靖

人気絵本作家・ヨシタケシンスケの絵本をもとに、気鋭のダンサー・振付家のスズキ拓朗が手掛けた家族で楽しめるダンス公演、おどる絵本『みえるとか みえないとか』が水戸芸術館に登場します。

振付・演出・構成：スズキ拓朗

原作：ヨシタケシンスケ『みえるとか みえないとか』(アリス館)

出演：スズキ拓朗、小林らら、青井 想(以上 CHAiroiPLIN)、  
稲葉由佳利、鳥越勇作、山下直哉、オクダサトシ

10月17日(土)、18日(日)

〈唐十郎名作シアター〉劇団唐組 紅テント公演

会場：水戸芸術館広場特設紅テント

～唐十郎の名作を水戸芸術館広場特設紅テントで届けます～



アンダーグラウンドカルチャーの旗手、詩情あふれる言葉と俳優の肉体が生み出すダイナミズムに満ちた唐十郎の劇世界を継承し活動を続ける劇団唐組。今年も水戸芸術館広場特設紅テントで、熱気あふれる舞台をお届けします。

作：唐十郎

演出：久保井 研、唐十郎

出演：劇団唐組

©唐組

## 4. 水戸映画祭

水戸では鑑賞する機会の少ない話題作を上映するなど、映画ファン必見のイベント。1986年10月に第1回が開催されて以来、水戸の映画文化の発信、芸術文化全体の振興、地域社会の活性化、地域住民の心の豊かさの提供を目的に続けてきました。

昨年の深作欣二監督の特集に続き、今年是水戸市出身の映画カメラマン・川又 昂を特集します。

11月7日（土）、8日（日）

第41回水戸映画祭

特集「カメラマン川又 昂の見た風景」

～「砂の器」など、日本映画の名作、ヒット作を撮影したカメラマンが求めたもの～



2025年10月「第40回水戸映画祭」より



深作欣二監督の先輩格にあたる水戸市出身の映画人・川又 昂。小津安二郎作品のカメラマン厚田雄春に師事し、松竹の作品を中心に撮影を担当しました。本特集では、脚本家・橋本 忍、監督・野村芳太郎とのコラボレーションの成果を検証し、川又 昂がカメラを通して見た日本の風景の映像的な魅力を探っていきます。

共催：水戸映画祭実行委員会

## 5. 教育普及事業

### ～楽しみながら学んでいく「アート教育プログラム」～

ACM 劇場は演劇を中心とした舞台芸術を鑑賞する場だけではなく、さまざまな年代の地域住民の“学びの場”としての役割を長年務めてきました。参加者の可能性を伸ばしていきながら、楽しんで学んでいくという人気の学習・体験レッスンです。一日完結から数日間の短期スタイル、さらには年間を通して学んでいき発表公演を行う長期スタイルまで、さまざまな教育プログラムをご用意しています。

### 三部門合同子ども企画＜こども芸術館＞サマー・フェス 2026



～劇場で、エントランスで、ラウンジで…

水戸芸術館のいろんな場所で演劇やダンスであそんでみよう！～

#### • ゆうくんとマットさんの「おはなしキャリーボックス」

会場：コーヒーラウンジ

毎月人気の読み聞かせを 8 月 8 日に開催します。ご家族みなさまで楽しくお過ごしいただけます。

#### • エントランスで踊ってみる！rebirth

会場：エントランスホール

〈水中めがね∞〉のダンサー・振付家の根本紳平を講師に迎え、ダンスワークショップを開催。みんなで作った作品を、エントランスホールで発表します！

#### • PLAY ROOM「ぶたいつくり隊」

会場：ACM 劇場

進行役：大内真智（専属劇団 ACM）



子どもたちの“あそびゴコロ”を芽吹かせて、“創る”ことを一緒に楽しむワークショップです。

今回は、一緒に“舞台の準備”をしてみるワークショップ。舞台をどんな風につくっているのか、少しだけ覗いてお手伝いしてみよう！

## 朗読スタジオ

5月 プレコース

6月～2月 発表公演コース（発表公演：2月21日（日））

講師：壤 晴彦（俳優・演出家・演劇倶楽部『座』主宰）、相澤まどか ほか

～美しい日本語をみつめなおし、声に出して、共に学ぶ～



俳優、声優、演出家として国内外で活躍する壤 晴彦を講師に、朗読を通して日本語の美しさを再発見することを目的としたスクールは、今年で14年目を迎えました。発声の基礎から学び、2月に発表公演を行います。

2026年2月公演「声のギャラリー」より  
©刑部アツシ

## 水戸子どもミュージカルスクール

5月～3月（発表公演：3月21日（日・祝）、22日（月・振休））

講師：高城信江、大内真智（専属劇団 ACM）、片山千穂 ほか



～学年、学校を越えた仲間たちとともに歌って踊って演じてミュージカルを学ぼう～



小学4年生から中学3年生がミュージカルを学ぶ人気のスクール。今年度で14年目となります。5月開校、通年でミュージカルを学び、3月の発表公演を目指します。仲間と一緒に作品をつくりながら、子どもたちは自分自身を発見していきます。校長は高橋 靖水戸市長です。

2025年3月公演「雪のプリンセス」より ©刑部アツシ

12月1日（火）～3日（木）、8日（火）、9日（水）

小学生のための演劇鑑賞会『スーホの白い馬』

～水戸市立小学校の4年生全員が ACM 劇場で観劇～



水戸市立小学校の4年生約2200人をACM劇場に招待し、生の演劇を体験してもらう企画。

楽しい観劇体験が、舞台芸術や文学への興味を深め、子どもたちの豊かな感受性を育むとともに、演劇鑑賞のすそ野を広げています。

2022年「スーホの白い馬」公演より ©刑部アツシ



## ●地域交流プログラム

4月2日（木）～12日（日）

初心者からの演劇体験ワークショップ「えんじるじかん」

講師：塩谷 亮（専属劇団 ACM）

～初心者からの演劇体験ワークショップ～



専属劇団ACMの俳優による、全く演劇経験のない方でも参加できる演劇入門講座です。演劇の1シーンを参加者皆で創りあげます。遊び感覚で、舞台上で「演じる」こと＝俳優の体験ができるワークショップです。

7月

体験型ワークショップ「伝わる声の作り方」

講師：塩谷 亮（専属劇団 ACM）

～発声の基本から丁寧に指導 日常生活にも役立つ声の講座～



楽しみながら声を磨くワークショップ、毎回満員御礼の人気企画です。

俳優のセリフ術や訓練を活用して、日常生活にも役立つ豊かな言葉の表現を体験できる講座です。

年数回

演出家・クリエイター等による交流プログラム

～舞台を生み出すクリエイターと地域の人たちとの出会いの場～

公演事業や人材養成事業に登場するクリエイターたちと、表現することに興味を持つ市民との出会いの場をつくりだします。地域の交流ワークショップとして、気軽にお楽しみいただけます。



現代美術センターは、時代の状況をふまえながら、多様な価値観と個性、視点を大切に  
し、想像力あふれるアーティストらの実践を通して、幅広い層の人々が〈みる〉、〈つく  
る〉そして〈対話する〉ことを楽しめる機会を、地域の人々との連携によってつくって  
いきます。

#### 1. 展覧会事業

- (1) 多様な表現と価値観を紹介する企画展
- (2) 若手作家を新作中心に紹介する個展シリーズ「クリテリオム」

#### 2. 地域連携事業

地域の人々とともに、〈つながり〉をつくり〈地域〉を見つめ直す

#### 3. 教育普及事業

さまざまな年齢層とコミュニティに向けて、現代美術の楽しみを伝える

# 1. 展覧会事業

## (1) 多様な表現と価値観を紹介する企画展

美術部門の事業の核となるのが企画展です。近年の目覚ましい活動が注目されるアーティストによる大規模個展から、現代の視点を通して民藝や古道具を捉え直す企画展まで、さまざまなキャリアのアーティストによる多様な表現と価値観を紹介します。

4月1日（水）～5月6日（水・振休）

飯川雄大：大事なことは何かを見つけたとき

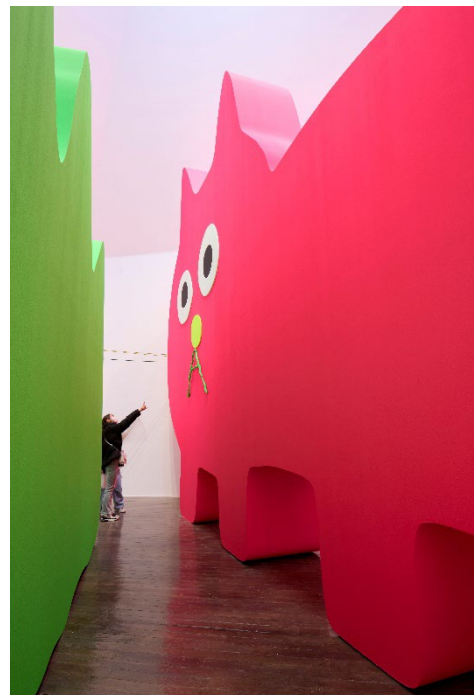
～鑑賞者の思考を揺さぶり新たな視点を提案する飯川雄大の個展～

飯川雄大は時間の相対性や知覚のゆらぎに着目し、何気ない風景や身近な物事を注意深く観察することで、人々の認識の不確かさや、社会で見過ごされがち存在に目を向けさせる作品を制作してきました。記録という行為とそこからこぼれおちるものの考察から生まれた〈デコレータークラブ〉シリーズでは、巨大なピンクの猫を街中に突如出現させたり、鑑賞者のかかわりによって移動・変化するオブジェを屋内外に設置したりと、立体、写真、映像等を自由に組み合わせ、空間の特性を活かしたダイナミックな作品を展開しています。

本展では、飯川のこれまでの実践を包括的に紹介するとともに、情報の曖昧さや感覚の不完全さを新たな可能性と捉え、鑑賞者を巻き込む新作インスタレーションとして様々な仕掛けを出現させます。鑑賞者と作品との出会いがギャラリー外へと波及し、通りすがりの誰かが、普段と異なる光景を発見するかもしれません。思いもよらぬ出来事に出会った時の衝撃、生々しいリアリティを持った想いを、私たちはそのことを知らない他者にどのように伝えることができるのか、その（不）可能性について、ともに考える機会となるでしょう。



《デコレータークラブ—0人もしくは1人以上の観客に向けて》  
2026年 水戸芸術館現代美術ギャラリーでの展示風景  
撮影：阪中隆文



《デコレータークラブ—ピンクの猫の小林さん》  
2026年 水戸芸術館現代美術ギャラリーでの展示風景  
撮影：阪中隆文

企画：畑井 恵（水戸芸術館現代美術センター学芸員）

7月25日（土）～ 10月12日（月・祝）

竹村 京：うごくせかい

～日常から災害まで、縫う行為を通して移り変わる世界と向き合う竹村京の個展～

竹村 京（たけむら・けい／1975年東京都生まれ、群馬県在住）は、時間の流れや人・モノの移動、天変地異から偶然の一手まで、大小さまざまな要因によって揺らぐ世界のなかで淘汰や忘却に絡めとられてしまいそうな対象に目を向け、縫う行為によってその存在に新たな光を与える作品を制作してきました。

新婚生活を送る友人の部屋を等身大で写し取り、その部分を縫い付けることで地震にも負けない保管のかたちを模索した初期作品《A.N.のリビングルーム、地震の予感》（2005年）をはじめ、写真やドローイングに薄い布を重ねて刺繍した平面作品や、壊れてしまった日用品を布で包み失われた部分に沿って一つひとつ「修復」を施した作品群、緻密な運針のなかに時間の流れや世界との交感を表した「time counter」など、竹村はその創作を通して、個人の記憶や出来事を「仮留め」する試みを重ねてきました。「千年後の人に残るイメージを作りたい」という竹村の関心は、芸術性や機能性のみならず近年では生命工学の観点からも注目されるシルクを主な素材とすることで、表現の可能性をますます広げています。

作家過去最大規模の個展となる本展では、竹村の代表作に加え、構想を温めてきた「天災」と「修復」に関するふたつの新作インスタレーション作品の実現や、水戸市中心市街地を舞台に市民と〈修復〉について考えるプログラム（共催：水戸商工会議所）にも取り組み、その創作を通じて記憶と喪失、時間や行為における不可逆性といった普遍的テーマへと迫ります。



上・左から）《入ってもよろしいですか シーン 1, 2, 3, 4, 5》2023年「ホーム・スイート・ホーム」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、2024年／《A.N.のリビングルーム、地震の予感》2005年、豊田市美術館蔵

下・左から）「長島有里枝×竹村京『まえといま』」群馬県立近代美術館、2019年／《Time Counter》2019-2024年、個人蔵、撮影：木暮伸也

特別協賛：メルコグループ

企画：後藤桜子（水戸芸術館現代美術センター学芸員）

11月7日(土)～2027年1月31日(日)

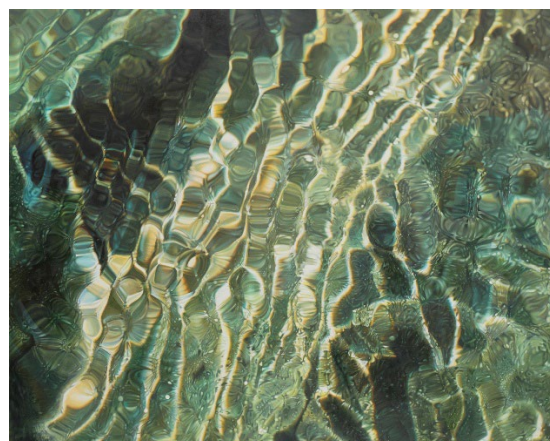
## コレクション展

～収蔵作品を通して現代美術センターの活動の軌跡をたどる～

自主企画を主な事業とする当館のコレクションは、開館前に収蔵した作品のほかは、主に当館で開催した展覧会の出品作品の一部から成ります。本展では当館の展覧会事業の「証」ともいえる収蔵作品を通して、当館のこれまでの展覧会史を振り返ります。

本展会期は年間を通して学校からの団体鑑賞が最も多くなる時期です。そのため小学校高学年を対象に想定した解説を作成し、子どもたちが現代美術に親しむためのガイドを充実させます。

展示する収蔵作品の作家名：上田 薫、クリスト&ジャンヌ=クロード、小清水漸、野村 仁、ロバート・メイプルソープ ほか



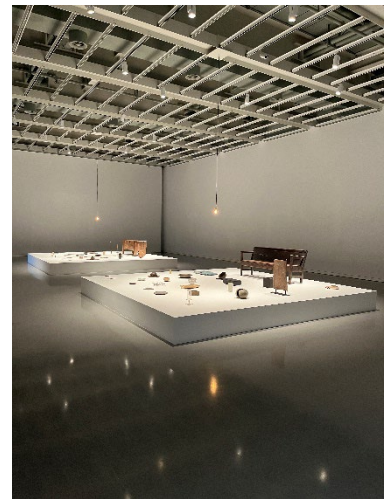
上・左から) 小清水漸《浮くかたち〈八艘・四杯・三隻・一片〉》1987年、彫刻/上田 薫《流れC》1992年、油彩  
下・左から) 野村 仁《正午のアナレンマ '90》1990年、写真/クリスト&ジャンヌ=クロード《アンブレラ、日本とアメリカ合衆国のジョイント・プロジェクト》(部分)1987年、ドローイング

企画：竹久 侑（水戸芸術館現代美術センター芸術監督）

2027年2月27日（土）～3月31日（水）※会期：5月5日（水・祝）まで  
まことのはな いまようのはな 展

本展は、民藝から古道具、さらにファウンド・オブジェを用いたインスタレーションを通じ、伝統と前衛が循環しながら、“不易の美”と時代によって変化し続ける“新たな美”の在り方を探るとともに、茶道における「見立て」に象徴される日本の美意識の在り方と現代アートのあいだに通底する価値転換の思想を往還させる試みです。

日本における美意識の展開は、権威的・装飾的な価値観とは異なり、日常生活に潜在する静謐や質素の中に美を見出す姿勢によって特徴づけられるでしょう。その源流は千利休（1522-1591）の「侘びの精神」に端を発し、柳宗悦（1889-1961）の提唱した「民藝」および「用の美」を経由し、現代においては坂田和實（1945-2022）による「古道具」の実践へと連なっています。本展では、これらを思想的かつ実践的に関連づけ、今現在、そしてさらには未来における美の概念を再考するための新たな場を構築します。



左：青柳龍太《SANDPLAY untitled. 1》 中央：伝千利休《雨漏茶碗 銘 初時雨》朝鮮時代 16世紀

右：「古道具坂田 僕たちの選択」展示風景、2024年3月21日-7月21日© BY ART MATTERS 天目里美術館、杭州

協力：日本民藝館

出品作家：柳宗悦（日本民藝館）、千利休、坂田和實（古道具坂田）、青柳龍太

企画：井關悠（水戸芸術館現代美術センター主任学芸員）

## （２）若手作家を紹介する個展シリーズ「クリテリオム」

「クリテリオム」では、若手作家と当館学芸員との協働で、新作中心の小規模な個展を作り上げます。開館２年目から続く本シリーズは、新進作家を個展形式で紹介する先駆的な取り組みで、のちに日本を代表することになったアーティストを多く輩出してきました。若手作家のキャリア早期において重要な役割を果たしてきた本シリーズの第 102 回を実施します。

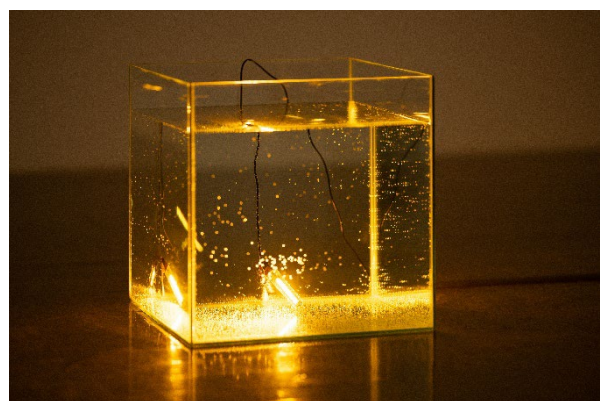
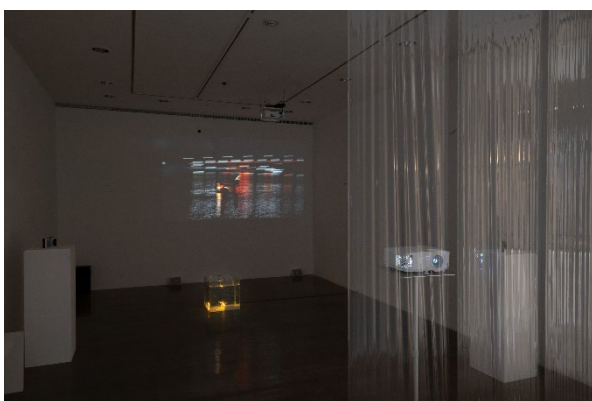
4月1日（水）～5月6日（水・振休）  
クリテリオム 102 白丸たくト



人や環境との関わりから、土地がもつ社会的、歴史的、感情的な側面へとアプローチする白丸たくト（1992 年兵庫県出身、茨城県大洗町在住）による個展。

関西から東北へ、そして茨城県水戸市、大洗町へと拠点を移してきた白丸は、その土地で編まれた言葉や生活を取りまく音に接することで、自身の実感のなさや当事者になりえない事柄を読み解くことを試み、行為の痕跡として生まれる音や言葉、アクションによる表現を探求してきました。

本展では、2021 年から白丸が拠点を置く大洗海岸周辺の風景や、大洗町と水戸市をつなぐ人や物の流れに目を向けて制作した複数の新作を、インスタレーション作品「あわいの響き」として展示しています。



上）《混生：2つの防潮堤》2026年、14枚のスライドショー、14行からなる詩（撮影：朝田翔一郎）  
下・左から）「クリテリオム 102 白丸たくト」展示風景（撮影：根本 譲）／《あまねき明滅》2026年、シングルチャンネルビデオ、4チャンネルオーディオ、3.5%の塩水、LEDライト（部分／撮影：根本 譲）

企画：後藤桜子（水戸芸術館現代美術センター学芸員）

## 2. 地域連携事業

多様なかたちをもつ現代美術は、ときに展示空間を飛び出し参加型のプロジェクトとして、人と人が出会い、つながる場を開いてきました。現代美術センターでは地域の人々と連携し、地域についてとらえ直すアートプロジェクトを実施しています。

### 「竹村 京 うごくせかい」地域交流プログラム（4月～10月）

会場：水戸芸術館館内各所、市内中心市街地各所

#### ～思い出のあの場所に、「修復」の糸で光を当てる～



左から）高校生ウィーク 2026 での修復ワークショップの様子／

修復された水戸芸術館広場のスプリングラー



現代美術家の竹村 京は、壊れた物や失われていく場所を作品のなかに縫い留め、その物や出来事に向き合うことを「修復」と呼びます。このプログラムでは、水戸市中心市街地の記憶にまつわる物や写真を参加者が持ち寄り、地域における「修復」のさまざまな取り組みを学びながら、その意味や方法について考えます。また、竹村京展会期中に成果作品を展示します。

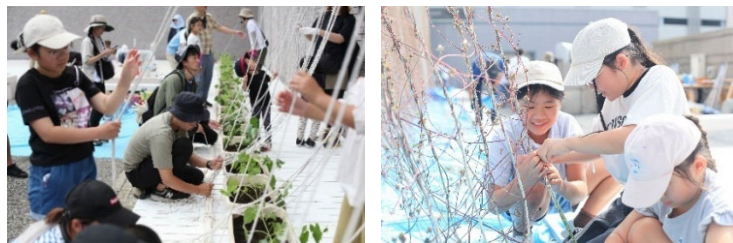
共催：水戸商工会議所

協力：弘道館ほか

### 5月30日（土）～ 11月14日（土） 明後日朝顔プロジェクト 2026 水戸

会場：水戸芸術館 2 階回廊を拠点に、水戸市民会館と京成百貨店でも実施

#### ～朝顔を通して人と人、地域がつながる—Mitorio 連携プロジェクト！～



撮影：仲田絵美

共催：明後日朝顔プロジェクト水戸実行委員会、  
水戸市民会館、（株）水戸京成百貨店

2005年に当館で開催した「日比野克彦の一人万博」展を機に、新潟県十日町市筋平から水戸に渡った「明後日朝顔プロジェクト」は人と人、人と地域、地域と地域をつなぎます。市民有志の実行委員会、水戸市民会館、京成百貨店との共催で、Mitorioを拠点に地域のつながりを広げます。

9月23日(水・祝) ※荒天中止

HIBINO CUP

会場：広場



～創作とスポーツと一緒に楽しめる！ 日比野克彦発案のアートイベント～



撮影：山野井咲里

日比野克彦の示すテーマにそって、チーム毎にゴールとボール、ユニフォームを制作し、それらを使って独自ルールのミニサッカーで競い合います。サッカーの勝敗だけでなく制作の創意工夫も表彰の対象にします。親子や友人同士でお楽しみいただけます。

共催：HIBINO CUP 実行委員会

### 3. 教育普及事業

～さまざまな年齢層とコミュニティに向けて、現代美術の楽しみを伝える～

現代美術の楽しみを伝えるための活動をアーティストや市民とともに行います。現代美術が示す多様な価値観は、考え方が揺らぐ時代に思索の時と場を提供します。また、創造と想像の喜びは日常をより豊かなものにするでしょう。市民のみなさんの声をもとに工夫を施しながら、さまざまな年齢層やコミュニティにプログラムを提供します。

#### ●こどもの鑑賞プログラム ～まずは、学校・園での鑑賞から～



##### ① プレスクールプログラム（4月）



2025年の様子 撮影:仲田絵美

2007年から2018年まで実施していた、幼稚園・保育園・こども園の年長クラスを対象とした鑑賞ツアーと工作のプログラムを2025年に再開。美術館に親しむ第一歩として、館内でのマナーを伝え、スタッフによる案内のもと少人数のグループに分かれて鑑賞します。  
※園からの申込制

##### ② デリバリー展覧会（10月～3月うち2日間）



デリバリー展覧会の様子（2025年埼玉県川口市）

タグチアートコレクションによる現代美術の展覧会を学校へ届けます。児童生徒および教職員をはじめ、保護者など地域の人々が、本物の作品を身近に鑑賞するプログラムです。当館ボランティアとの対話を通して、さまざまな視点から作品を観る機会を設けます。鑑賞ファシリテーターの研修の場としても活用します。  
共催：アーツプラス現代芸術研究所

##### ③ またきて美術館（12月）



2025年の様子

小学4年生対象の演劇鑑賞会と連動し、観劇の前後にギャラリーで開催中の展覧会にスタッフが案内します。初めて美術館に来る子どもたちを念頭に、わかりやすい言葉で展示作品の見どころを伝えます。美術館への第一歩となる機会を設けることで、芸術館を身近に感じてもらい、また来たいと思える経験をもたらすことを目指します。  
※学校単位での申込制

## ●アーティストワークショップ

～アーティストのアイデアに触れながら、もの作りを楽しみ、日常を楽しむ創造力を磨こう～

展覧会にあわせて企画するアーティストによるワークショップをはじめ、ものを作り、考えを共有するワークショップを行います。多様な視点を示すアーティストの価値観に触れながら、ものを作ることは、心の開放にもつながり、また日常を楽しむアイデアをもたらします。

### ① 展覧会連動ワークショップ（通年）



2025年の様子 撮影：仲田絵美

展覧会への関心を高め、理解を深めるワークショップです。

出品作家や関連の作家、展覧会担当学芸員と共にプログラム内容を考え、市民による造形ボランティアも企画と運営に関わります。

展覧会にかかわるワークショップを通して、地域におけるアートを介した交流の場を市民とともに育むことを大切にします。

### ② 三部門合同子ども企画〈こども芸術館〉サマー・フェス2026

ヤー！ヤー！ヤー！MITO（8月8日（土）、9日（日））



「夏のこらぼ・らぼ ヤー！ヤー！ヤー！MITO」

2025年の様子 撮影：仲田絵美

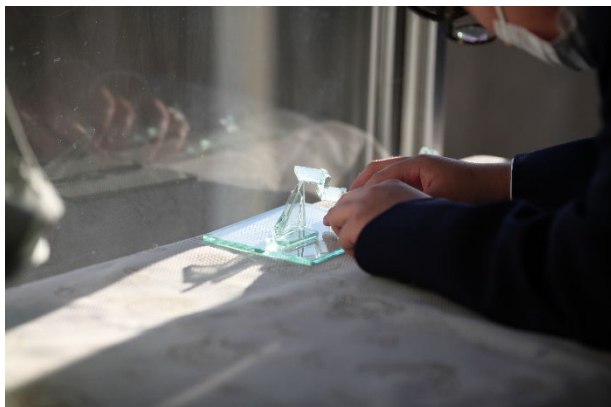
夏休み中の子どもから大人までが、水戸芸術館を横断的に楽しむ部門を越えたワークショップ事業「こども芸術館サマー・フェス2026」の一環として、2025年に好評を博した浜松を拠点とするアーティスト・コレクティブ「そろそろ art in progress」によるワークショップ「ヤー！ヤー！ヤー！」を再び招聘します。

シルクスクリーンプリント、人形劇等に加え、水戸ゆかりのアーティストや市民による企画、古本市、移動販売車等の出店を合わせ、芸術館全体を回遊して楽しめる企画を実施。鑑賞のほか、制作や交流を通して多くの市民に美術に触れる楽しみを伝えます。

## ●小中学生のための学校訪問アートプログラム（9月～2月）

会場：各小中学校

～学校に出向き、アートプログラムをお届けします！～



榎野さやかワークショップ 2025年の様子  
撮影：仲田絵美

当館ゆかりのアーティストによるワークショップから、学芸員によるレクチャーまで、学齢別に多彩なアートプログラムを用意し、美術を通じたアクティブ・ラーニングの機会を子どもたちに届けます。

## ●赤ちゃんと一緒に美術館散歩（年6回、各展覧会2回）



「近藤亜樹：我が身をさいて、みた世界は」（2025年）での様子 撮影：仲田絵美

乳幼児とその保護者が安心して参加できる展覧会鑑賞ツアー。参加者のペースにあわせて展覧会を案内し、乳幼児ケアをサポートします。

## ●視覚に障害がある人との鑑賞ツアー「session！」（未定）

～見える人と見えない人がともに対話を通して鑑賞するツアー～



「今村源 遅れるものの行方」（2023年）での様子  
撮影：山野井咲里

水戸市在住の全盲の美術鑑賞者・白鳥建二氏がナビゲーターを務める、見える人と見えない人が対話しながら作品を鑑賞するツアー。障害の有無に関わらず、居合わせた人同士が奏でるコミュニケーションを楽しみます。本年度は県内在住の視覚障害者によるナビゲーターチームを編成し、参加者の枠を拡げます。

## ●ユースプログラム

### ① 水戸市内の専門学校との連携

団体鑑賞の機会を促進するほか、互いの事業やニーズに合わせた協働プログラムを立ち上げ、近隣の教育機関との連携を通して、将来の文化の担い手を育むとともに、ユース世代による当館の利用を促します。

### ② 水戸市内の大学との連携

水戸市で学生生活を始める新入生を中心に歓迎企画を実施し、水戸芸術館を知る機会を設け、学生たちによるその後の利用へつなげます。

また、ワークショップやボランティア活動等、当館の教育プログラムに携わることで、美術館活動及び現代美術に親しむ場を提供します。

### ③ ユース・アート・コース

高校生を中心としたユース世代が、現代美術が示す多様な価値観に触れるプログラムを考える新しい枠組みです。当館ゆかりの現代美術作家に協力を仰ぎ、既存のプロジェクトへの参加や、ワークショップや勉強会を重ね、同じ若い世代が現代美術に親しむプログラムを学生たちとともに開発することを目指します。

## ●地域連携教育プログラム（通年）

水戸市や近隣市町村の学校・施設等と協働し、当館での展覧会の対話型鑑賞・ワークショップを含む教育プログラムを実施します。

対話型鑑賞の有用性や鑑賞することと表現することの連動による効果を伝える企画を、地域のさまざまな施設・団体と連携してつくります。

## ● 共創拠点（みんなのアートセンター）

展覧会やワークショップなどの事業を軸に、市民が自身の関心や経験を活かして主体的に活動し、共創するためのプラットフォームです。

### ① 「CAC ギャラリートーカー」による対話型鑑賞プログラム（通年）



ウィークエンドギャラリートークの様子

市民ボランティア「CAC ギャラリートーカー」による対話型鑑賞のギャラリートークを実施します。

災害や戦禍をはじめ、一つの正解を導けない課題を多く抱える現代、作品の前で私たち一人ひとりが感じ、考え、他者と対話を交わす時間と空間はますます重要になっているでしょう。

### ② デリバリー展覧会 ボランティア



デリバリー展覧会の様子(埼玉県川口市)

「デリバリー展覧会」で学校での対話型鑑賞を担うボランティア活動です。

当館のボランティアに加え、地域の市民への参加を呼びかけます。多様な価値観を提示する現代美術作品と児童生徒との出会いとなる鑑賞の場を共に作り出します。

### ③ 造形ボランティア（通年）



造形実験室の様子 撮影：山野井咲里

「展覧会連動ワークショップ」、「ヤー！ヤー！ヤー！MITO」を中心に館の内外で、作ることの楽しさを味わいながら、参加者の造形活動を支えるボランティア活動です。素材や人との出会いを楽しむ場所や関係づくりを促進します。

### ④ 乳幼児ケア（通年）



赤ちゃんと一緒に美術館散歩の様子

館内係員 ATM フェイスの有志チームと一緒に、来館する乳幼児や保護者のケアを担う市民ボランティアです。それぞれのバックグラウンドを生かした多様なかわり方で、豊かな美術館時間を創出します。

## ⑤ 部活動（通年）



アーカイ部 2025 年の様子

自主的な創作や交流の楽しみをほかの来館者へと広げる活動を行います。現在は「ほんでたいわ部」や「アーカイ部」「織り部」などが年間を通じて活動しています。

## ⑥ 学生ボランティア



2019 年学生によるギャラリーガイド作成の様子

主にユースプログラム等に参加する高校生や大学生、専門学校生徒などと一緒に教育プログラムを開発、実施します。展覧会鑑賞や作家との活動を通して自ら学びながら、他の学生や市民に現代美術の楽しみを伝えます。

## ⑦ ふえいすらぼ（通年）



展覧会事業をきっかけに始まった当館案内係 ATM フェイス有志によるグループ「ふえいすらぼ」による手芸品の制作と販売を行います。



8月8日(土)、9日(日)  
水戸芸術館3部門合同企画  
〈こども芸術館〉サマー・フェス2026



～夏休みのひとときを、みんなで楽しくアート体験！！～

水戸芸術館の夏休みこども企画を新しくスタートさせます。  
音楽、演劇、美術の3部門がクロスオーバーする、水戸芸術館ならではの子ども企画です。現代美術作家や専属劇団員によるワークショップ、初めてのコンサート体験など、多種多様なプログラムを通して、わくわくするアート体験を子どもたちに提供します。夏休みの一日をご家族でお楽しみください。

#### 音楽部門

- ・「0歳からのオルガン・コンサート」(詳細 P21)
- ・時報・プロムナード・コンサート(仮)

#### 演劇部門(詳細 P36)

- ・ゆうくとマツさんの「おはなしキャリーボックス」
- ・エントランスで踊ってみる rebirth
- ・PLAY ROOM「ぶたいつくり隊」

#### 美術部門

- ・ワークショップ「ヤー！ヤー！ヤー！MITO」(詳細 P48)
- ・竹村京展ゆらゆら鑑賞ツアー
- ・こどもの絵本 こしょこしょ市

# 地域共催事業

## 1. 第57回水戸市芸術祭

水戸市民による芸術の祭典「水戸市芸術祭」。今年度は、28プログラムのうち11プログラムを水戸芸術館で約3か月にわたり開催し、多数の市民が参加して日頃の活動の成果を披露します。

主催：水戸市文化振興協議会、水戸市、水戸市教育委員会、(公財)水戸市芸術振興財団、茨城新聞社

5月22日(金)～24日(日)

### いけばな展

会場：現代美術ギャラリー

出品流派：龍生派、古流松應会、広山流、池坊、小原流、草月流



6月2日(火)～12日(金)

美術展覧会 第1期：日本画・洋画・彫刻・工芸美術

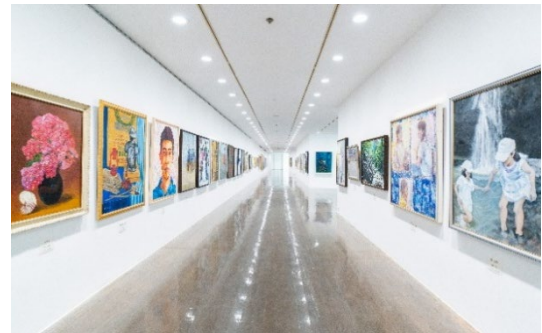
6月17日(水)～28日(日)

美術展覧会 第2期：書・写真・デザイン・インスタレーション

日本画や洋画、書、写真、インスタレーションなど幅広いジャンルにわたり、多数の応募作品の中から選ばれた力作を2期に分けて展示します。

会場：現代美術ギャラリー

出品者：水戸市民による公募



6月14日(日)

### 謡と仕舞の会

劇場の能舞台上、各流派による素謡、連吟、仕舞のほか鼓や笛の公演を行います。

会場：ACM 劇場

出演：観世流、金春流、宝生流

6月28日(日)

### 三曲各流演奏会

琴、尺八、三味線による演奏会です。社中合同の演奏会や現代曲を邦楽にアレンジした作品など多彩なプログラムを披露します。

会場：ACM 劇場

出演：生田流、山田流、琴古流、新都山流

7月4日（土）、5日（日）

### 市民音楽会

市内で活動している音楽団体がピアノやギター、オカリナなど多彩な楽器演奏を行います。

会場：コンサートホール ATM / 出演：水戸市内等の音楽団体

7月5日（日）

### バレエフェスティバル

市内のバレエ教室に通う幼稚園児から高校生までの子どもたちが、日頃のレッスンの成果を披露します。

会場：ACM 劇場 / 出演：水戸市内のバレエ教室

7月25日（土）

### 合唱フェスティバル CHORUS de MITO

市内の合唱団が参加し、豊かなハーモニーで彩ります。

会場：コンサートホール ATM / 出演：水戸市内の合唱団体

7月26日（日）

### 少年少女合唱祭

市内のこども合唱団による合同合唱祭。

会場：コンサートホール ATM / 出演：水戸市内の少年少女合唱団

8月16日（日）

### ジュニアオーケストラ演奏会

小学生から高校生までの子どもたちで編成された40年以上の歴史のあるオーケストラが、大人顔負けの熱演を披露します。

会場：コンサートホール ATM / 出演：水戸ジュニアオーケストラ

8月22日（土）、23日（日）、29日（土）、30日（日）

### 演劇フェスティバル

市内を中心に活動する劇団が2週にわたって持ち味を活かした演目を披露します。

会場：ACM 劇場 / 出演：水戸市内の演劇団体

8月23日（日）

### 交響楽演奏会

県内の音楽愛好家が中心になって創立し、50年以上の歴史をもつオーケストラ「茨城交響楽団」による演奏をお楽しみいただきます。

会場：コンサートホール ATM / 出演：茨城交響楽団

## 2. その他の地域共催事業

エントランスホールや劇場、コンサートホールにて、地域の人々と協力して行う事業や、地域の子どもたちが参加する様々な事業を行います。

6月

### 「水戸の梅まつり 写真コンテスト」入賞作品展

水戸の梅まつり期間中に偕楽園・弘道館公園で撮影された写真コンテストの入賞作品を展示します。

会場：エントランスホール

主催：水戸の梅まつり実行委員会、茨城県カメラ商組合

9月～10月

### 第58回花の絵コンクール作品展

水戸市住みよいまちづくり推進協議会が中心となって開催している「花いっぱい運動」の一環として公募した絵画作品の展覧会です。

保育園、幼稚園児及び小・中学校の児童、生徒の優秀作品を展示します。

会場：エントランスホール

主催：水戸市住みよいまちづくり推進協議会



10月28日（水）

### 水戸市立第二中学校 清流祭合唱コンクール

水戸市立第二中学校による合唱コンクールです。

会場：コンサートホール ATM

主催：水戸市立第二中学校

1月～3月

### 各種大会受賞記念小中学校演奏会

各種吹奏楽コンクール等で優秀な成績を収めた吹奏楽部、合唱部の受賞記念のコンサートです。

会場：コンサートホール ATM

主催：市内小中学校

1月～2月

### 第25回大手橋プラムコンサート

地元の第二中学校及び三の丸・五軒・柳河各小学校の吹奏楽部、合唱部等による合同の演奏会です。

会場：コンサートホール ATM

主催：大手橋プラムコンサート実施委員会

### 3. 広場での催事

街の中の憩いの場となっている広場で、まちに賑わいをもたらす市民参加の音楽会や各種イベントなどを地域の団体や人々と協力して開催します。

通年

#### 水戸芸術館ライトアッププロジェクト

2016年10月よりスタートした水戸芸術館のライトアップ企画。塔とカスケード（噴水）に、季節や時間などによって変化するさまざまなプログラムを施し、鮮やかな光のアートを生み出します。



©田澤 純

4月11日（土）

#### INOVATE THE CITY 水戸 ひかりとアートで、まちが変わる

「ひかりとアート」をテーマにした地域交流イベント。様々なイルミネーションのほか、ステージイベントやランタンづくりワークショップなどを開催します。

主催：水戸青年会議所

4月25日（土）、26日（日）

#### あおぞらクラフトいち Spring in 水戸

県内外で活動しているクラフト作家による手作り作品の展示・販売のほかアコースティックライブ、ワークショップなどを行います。

主催：あおぞらクラフトいち実行委員会



5月2日（土）

#### 水戸まちなかフェスティバル 2026

アート、ワークショップ、グルメ等をテーマとした出店や、学生や市民によるステージイベントなどを開催します。

主催：水戸まちなかフェスティバル実行委員会

5月5日（火・祝）、6日（水・振休）

#### 美 Fes 2026

美容に関する体験のほか、健康食品、キッチンカー、ステージイベント、映画の上映などを開催します。

主催：美 Fes 実行委員会

5月15日（金）、9月25日（金）、10月16日（金）

### 茨城県警察音楽隊「金曜コンサート」

茨城県警察音楽隊による吹奏楽コンサート。クラシック、ポップス、フォークなど幅広いレパートリーで子どもからお年寄りまで気軽に楽しめるコンサートです。

主催：茨城県警察音楽隊

5月31日（日）

### アカペラフェスティバル in 水戸 2026

県内外からアカペラグループが集まり、自慢の歌声を披露します。

主催：アカペラフェスティバル in 水戸 実行委員会

6月、10月、11月の第4土曜日

### アートタワーマーケット

リサイクル品や、アマチュア作家によるクラフト品を中心としたフリーマーケットです。

主催：アートタワーマーケット実行委員会

7月11日（土）

### 五軒サマーナイトコンサート&ふれあいまつり

地元の五軒地区の夏の音楽祭。幼稚園児から小・中・高校生、市民のコーラスグループ、水戸太鼓保存会など各種音楽団体が広場ステージで演奏します。

主催：ふれあいたうんコミュニティ

9月12日（土）

### 水戸野外映画上映会 2026

秋の夜空の下、特設大スクリーンでご覧いただく野外上映会。開放的な空間とゆったりと流れる時間…大人から子どもまで楽しめるアットホームな映画を上映します。

主催：水戸クリエイティヴウィーク実行委員会

10月10日（土）、11日（日）

### あおぞらクラフトいち Autumn in 水戸

県内外で活動しているクラフト作家による手作り作品の展示・販売のほかアコースティックライブ、ワークショップなどを行います。

主催：あおぞらクラフトいち実行委員会

11月

### 水戸市商店会感謝フェスティバル

にぎやかな街づくりを目的にしたイベントで、様々なステージイベントや模擬店をお楽しみいただきます。

主催：水戸市商店会連合会

## 中心市街地活性化事業

当館と水戸市民会館そして京成百貨店の連携によって、3つの施設から成る「MitoriO（ミトリオ）」地区の振興と中心市街地の活性化に寄与してまいります。

---

### 5月30日（土）～11月14日（土） 明後日朝顔プロジェクト 2026 水戸

会場：水戸芸術館 2階回廊を拠点に、水戸市民会館と京成百貨店でも実施  
※詳細は、美術部門事業概要（P.45）をご覧ください。

### 10月30日（金）～11月1日（日） 音楽劇『夜のピクニック』

会場：水戸市民会館グロービスホール（大ホール）  
※詳細は、演劇部門事業概要（P.25）をご覧ください

### <通年> 見学ツアー

当館および水戸市民会館、テツ・アートプラザ  
のそれぞれの施設を案内いたします。

共催：水戸市民会館、テツ・アートプラザ



### 水戸芸術館・水戸市民会館 名建築を撮影しよう！

会場：水戸芸術館、水戸市民会館

当館の写真撮り続けてきた写真家・田澤 純を講師に、当館および水戸市民会館の魅力的な建築を撮影するワークショップです。

共催：水戸市民会館

### 水戸市中心市街地建築マップ作成

水戸市の来訪者の回遊性を促すために、水戸の中心市街地にある主要な建築物などを網羅したマップを作成します。

# 吉田秀和賞

## 「吉田秀和賞」について

音楽を中心に芸術評論に多大な功績のあった吉田秀和水戸芸術館初代館長の名を冠し、1990年に創設された吉田秀和賞は、芸術文化の振興を目的として、吉田秀和芸術振興基金において優れた芸術評論に対して賞の贈呈をしてきました。2013年度からは当財団が運営し、本年度は第36回目を迎えます。また、本年度より吉田秀和賞受賞者による講演会を開催いたします。

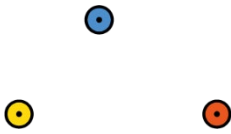
審査委員 片山杜秀 評論家・慶應義塾大学法学部教授  
審査委員 堀江敏幸 作家・早稲田大学文学学術院 文化構想学部教授

---

## 受賞作品

- 第1回（平成3年度） 秋山邦晴『エリック・サティ覚え書』青土社 1990年6月刊  
第2回（平成4年度） 持田季未子『絵画の思考』岩波書店 1992年4月刊  
第3回（平成5年度） 該当作品なし  
第4回（平成6年度） 渡辺 保『昭和の名人 豊竹山城少掾』新潮社 1993年9月刊  
第5回（平成7年度） 松浦寿輝『エッフェル塔試論』筑摩書房 1995年6月刊  
第6回（平成8年度） 長木誠司『フェルッチョ・ブゾーニ』みすず書房 1995年11月刊  
第7回（平成9年度） 伊東信宏『バルトーク』中央公論社 1997年7月刊  
第8回（平成10年度） 該当作品なし  
第9回（平成11年度） 青柳いづみこ『翼のはえた指 評伝 安川加壽子』白水社  
1999年6月刊  
第10回（平成12年度） 小林頼子『フェルメール論—神話解体の試み』八坂書房 1998年8月刊  
小林頼子『フェルメールの世界 17世紀オランダ風俗画家の軌跡』日本放送出版協会 1999年10月刊  
第11回（平成13年度） 加藤幹郎『映画とは何か』みすず書房 2001年3月刊  
第12回（平成14年度） 該当作品なし  
第13回（平成15年度） 岡田温司『モランディとその時代』人文書院  
2003年8月刊  
第14回（平成16年度） 湯沢英彦『クリスチャン・ボルタンスキー 死者のモニュメント』  
水声社 2004年7月刊  
第15回（平成17年度） 宮澤淳一『グレン・グールド論』春秋社 2004年12月刊  
第16回（平成18年度） 有木宏二『ピサロ／砂の記憶 —印象派の内なる闇』人文書院  
2005年11月刊  
第17回（平成19年度） 該当作品なし  
第18回（平成20年度） 片山杜秀『音盤考現学』アルテスパブリッシング 2008年2月刊  
片山杜秀『音盤博物誌』アルテスパブリッシング 2008年5月刊  
第19回（平成21年度） 岡田暁生『音楽の聴き方』中央公論新社 2009年6月刊

- 第20回（平成22年度）白石美雪『ジョン・ケージ 混沌ではなくアナーキー』  
武蔵野美術大学出版局 2009年10月刊
- 第21回（平成23年度）椎名亮輔『デオダ・ド・セヴラック 南仏の風、郷愁の音画』  
アルテスパブリッシング 2011年9月刊
- 第22回（平成24年度）新関公子『ゴッホ 契約の兄弟 フィンセントとテオ・ファン・ゴッホ』  
ブリュッケ 2011年11月刊
- 第23回（平成25年度）末永照和『評伝 ジャン・デュビュッフェアール・ブリュットの探求者』  
青土社 2012年10月刊
- 第24回（平成26年度）通崎睦美『木琴デイズ 平岡養一「天衣無縫の音楽人生」』  
講談社 2013年9月刊
- 第25回（平成27年度）榎木野衣『後美術論』美術出版社 2015年3月刊
- 第26回（平成28年度）立花 隆『武満徹・音楽創造への旅』文藝春秋 2016年2月刊
- 第27回（平成29年度）平芳幸浩『マルセル・デュシャンとアメリカ  
一戦後アメリカ美術の進展とデュシャン受容の変遷一』  
ナカニシヤ出版 2016年7月刊
- 第28回（平成30年度）堀 真理子「改訂を重ねる『ゴドーを待ちながら』一演出家としてのベケット」  
藤原書店 2017年9月刊
- 第29回（令和1年度）沼野雄司『エドガー・ヴァレーズ—孤独な射手の肖像』  
春秋社 2019年1月刊
- 第30回（令和2年度）柿沼敏江『＜無調＞の誕生 ドミナントなき時代の音楽のゆくえ』  
音楽之友社 2020年1月刊  
荒川 徹『ドナルド・ジャッド—風景とミニマリズム』  
水声社 2019年7月刊
- 第31回（令和3年度）前田良三『ナチス絵画の謎—逆襲するアカデミズムと  
「大ドイツ美術展」』みすず書房 2021年3月刊
- 第32回（令和4年度）新井高子『唐十郎のせりふ 二〇〇〇年代戯曲をひらく』  
幻戯書房 2021年12月刊
- 第33回（令和5年度）藤原貞朗『共和国の美術—フランス美術史編纂と保守／学芸員の時代—』  
名古屋大学出版会 2023年2月刊
- 第34回（令和6年度）鈴木 晶『ニジンスキー 踊る神と呼ばれた男』  
みすず書房 2023年7月刊
- 第35回（令和7年度）海老根剛『人形浄瑠璃の「近代」が始まったころ  
：観客からのアプローチ』和泉書院 2024年8月刊



公益財団法人 水戸市芸術振興財団  
〒310-0063 茨城県水戸市五軒町 1-6-8  
TEL : 029-227-8111 FAX : 029-227-8110  
E-mail : kouhou@arttowermito.or.jp  
<https://www.arttowermito.or.jp/>